2024年02月14日 中日新聞 朝刊 朝刊県内版 12頁

左ヘルメットを手に取る川口君。黄色のマイクロビットやソーラーパネルなどが付いている
右スマートフォンに表示される「ニャメット」のアプリ＝いずれも名古屋市中村区で

名古屋の小5・川口君 県最優秀

「全国選抜小学生プログラミング大会」の県大会で最優秀賞を受けた名古屋市中村区の八社小学校5年の川口聡介君(11)が、3月3日に東京都内である全国大会に出場する。自転車に乗るときのヘルメットの着用率を高めることを目的とした自作のシステムについて発表する。（村松秀規）

ヘルメットかぶらず自転車 減らしたい―

アプリ連携 システム開発

プログラミング 全国大会へ

「みんなの明るい未来のために役立つアイデアが詰まった作品」をテーマに募集され、県内の児童から寄せられた23件から選ばれた。作品名は「ニャメット」。超小型のコンピューター「マイクロビット」を取り付けたヘルメットと自作のスマートフォンのアプリを連携させたシステムだ。

アプリ画面では、自作のネコのキャラクターがヘルメットの着用で死亡のリスクが減ることなどを説明する。このアプリと連携するヘルメットをかぶる回数が増えると、取り付けたマイクロビットの光るパターンが選べたり、アプリ内で自分だけのネコのキャラクターの画像をつくれたりするようになる。

いずれもプログラミングを駆使して制作。LINE（ライン）との連携もでき、ヘルメットをかぶったときや急ブレーキをかけたときに自分の居場所を親に通知できるようにもした。こうした機能を可能にしているマイクロビットが常時動くよう、ヘルメットに小型のソーラーパネルと蓄電池を取り付ける工夫も凝らした。

昨年まで全国大会に3年連続で出場した中学1年の姉明莉さんの影響でプログラミングを始めた。学校のアンケートで自分が思っていたより自転車に乗るときにヘルメットをかぶる人が少なかったことから着想を得て、今回の制作につなげたという。

制作にあたり、自転車事故とヘルメットの着用に関する統計などを調べた川口君は「ヘルメットをかぶっていれば死なずに済んだ人がたくさんいる。自転車に乗るときにヘルメットをかぶらない人を減らしたい」と話している。

全国大会は、中日新聞社を含む地方の新聞社などでつくる全国新聞社事業協議会主催。都道府県大会で選出された児童たちが3分間で作品について発表し、発想力や表現力、技術力を審査する。グランプリ、準グランプリをはじめ全員を表彰する。

（c）.中日新聞社　無断転載、複製、頒布は著作権法により禁止されています